

(別添4)

【岸和田市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの表現～」において、ICTを利用して個別最適な学びと、協働的な学びの実現をめざすべき「令和の日本型学校教育」の姿を示している。これらの内容をふまえて岸和田市では多様な子供たちが主体的・対話的で深い学びの学習の中で誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が確実に育成できるようICT環境を実現することで、児童生徒が主体的にツールを選択し、活用する姿をめざしていく。また、今後の予測困難な社会を生き抜くため、ICT機器を活用し、自分自身で情報の取捨選択していくことができる情報活用能力を身に付けさせていく。

2. GIGA第1期の総括

個別最適な学びと協働的な学びを実現できるように、1人1台端末と通信ネットワークを整備し、それに伴って、学習支援ソフトや授業支援ソフトを導入してきた。その結果、子どもたちは自分のペースで学習を進められるようになった。また、多くの人と意見を共有することで、自分自身の意見に取り入れたり、比較検討することで自分の意見を振り返ったりでき、深い学びにつながるようになった。その一方で、学校間の活用差が生じたり、故障台数が増加したりするといった課題もある。活用差については、問題点を整理し改善を促したり、活用好事例を紹介したりして、利活用しやすくなるようにして

いる。故障端末に関しては、予備機を代替としたり、ICT支援員による設定作業を行ったりすることで、児童生徒の活動に支障のないようにしている。

3. 1人1台端末の利活用方策

GIGA第1期で整備された1人1台端末は、児童生徒にとっては重要な学びの道具となっており、学力学習状況調査の質問紙の回答では、ICT機器に関して、「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」や「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」の項目では概ね8割程度の肯定的意見があった。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向け、GIGA第2期では以下のように利活用を図っていく。

1. 「1人1台端末の積極的活用」

朝の時間などの様々な学習時間や1人1台端末を持ち帰り課題提出をおこなうなど、学校生活のあらゆる場面で1人1台端末をより一層、活用する機会を取り入れることができるようにする。

2. 「個別最適・協働的な学びの充実」

学習支援ソフトでは、自分が学習したい内容を自分で選択できるようになっており、また1人ひとりの学習進度に合わせた課題が出るようにおこなうこともできる。授業支援ソフトでは、他の人の考えを簡単に共有することができ、自分の考えとの比較検討をおこないやすくなっている。これまでの取り組みを引き続き行いながら、より多くの情報と相対したときに自分にとって必要なものを取捨選択することができるようにする。

3. 「学びの保障」

学校とのつながりを作る1つのツールとしての1人1台端末活用から始め、支援を要する児童生徒への学習支援など児童生徒のニーズに応じた活用を行っていききたい。